

令和7年度 瑞浪市在宅医療・介護連携推進懇談会 会議要旨

- 会議の日時:令和7年7月24日(木) 13時30分から14時45分まで
- 場所:瑞浪市保健センター 3階大会議室
- 出席者:古積晃 矢野元子 岩島広明 計良雅之 田中佐江子 伊佐地薫 大矢百合
小倉みゆき 安藤真由美 加藤範子 加藤聖二 橋本好江 野々垣直美
- 事務局:小木曾昌弘 加藤真由子 加藤久美子 渡邊愛加
- 議 事:

開会

健康福祉部長あいさつ

参加者の紹介

座長の選出

座長あいさつ

議題

1)令和6年度在宅医療・介護連携推進事業報告について

・意見質問なし

2)令和7年度在宅医療・介護連携推進事業計画について

- ・「瑞浪市の在宅医療・介護・通いの場・終活ガイドブック」のホームページ掲載について、ネットをみることができない高齢者も多い。最新の情報について、市役所やコミュニティーセンターに印刷した物を置いておいて欲しい。
- ・岐阜県医師会作成の「これからノート」について掲載について、心肺蘇生に関する医師の指示書について、有効期限が6か月となっている。いざというときに、ノートの場所が分からなかったり、期限が切れていたりがあってはいけない。これからノートの各家庭の置き場の統一を含め、周知について検討が必要。

意見交換

- ・市内の在宅クリニックの医師と連携しながら町内、市内の方が最期を迎えるにあたり、よりよいものになると良い。
- ・中核病院との連携にあたり、特に公立東濃中部医療センターに関する情報を早めに周知いただきたい。
- ・瑞浪市の在宅医療・介護・通いの場・終活ガイドブック内エンディングノートについて、掲載内容について、税理士等の監修を受けた方が良いのではないか。
- ・アンケート内に医療との連携について課題を感じている人の割合が高い。意見交換の実施等、よりよい関係づくりをしていくことが重要。
- ・東濃厚生病院の閉院に伴い、在宅医療が今以上に重要になると考える。
- ・訪問診療、訪問歯科診療などについて、十分周知ができていない。相談窓口を周知し、必要な人がサービスにつながることをできると良いと思う。
- ・公立東濃中部医療センターへの交通手段について、明確なことが決まり次第、

周知して欲しい。

- ・病院受診にあたり、公共交通機関を利用できない方は、タクシー利用しているが、タクシー代は高いため支援をいただきたい。
- ・訪問診療や訪問看護の方と連携しやすくなった。医療機関と直に連絡とれるアプリを活用し、在宅で生活する方よりよい方向につながれば良い。
- ・本人は最期まで自宅で過ごしたいと思っていても、「家族に迷惑をかけるから」とある程度の段階になると入所施設へいくことが多い。
- ・心肺蘇生に関する医師の指示書を、施設利用者が最近作成した。書類作成にあたり、家族に説明したが、家族自身悩まれ、理解し判断するまでに時間がかかった。
- ・訪問診療について、以前は看取りを希望する方が中心であった。今は、最終的には病院へ行くが、それまでは自宅で過ごすというケースも多く、何年か前と比べると訪問診療・訪問看護の関わり方や利用者の状況が変わっている。
- ・訪問歯科診療について、知らない人が多い。かかり方などを含め、広報紙等で周知して欲しい。
- ・瑞浪市の在宅医療・介護・通いの場・終活ガイドブックについて、介護保険サービス等の情報の周知に活用した。
- ・在宅医療等、サービスの説明に活用できる資料があると良い。
- ・公立東濃中部医療センターへの交通手段について、ヘルパー等が常駐しており、乗降介助をする等「介護バス」のようなものがあると良いのではないかな。
- ・在宅クリニック等の医師より、訪問診療利用中の方に関する相談が増えた。看取りを希望して在宅でケアを受けているが、医療的な処置をして欲しいという相談が増えている。情報をもらい、平日の午前中に来院していただき、各科へ情報提供している。
- ・災害発生時の在宅療養患者が継続して医療を受けることができるよう、BCPの作成支援を国も強化している。今後、在宅医療の災害への備えを強化していきたい。
- ・人口が年々減少し、少子高齢化に歯止めがかからない。高齢者施設の経営、病院の経営について危機感を感じている。
- ・自宅での看取りを希望していた人が、実際は最期を病院や施設で迎える人もいる。それを経験した人で人ではないと分からないことかもしれないが、心肺蘇生に関することも大切な意思確認であるので、本人・家族の支援の方法について検討が必要。
- ・本日の参加者からの意見を、事務局はこれからの事業の推進に生かしてほしい。